外国人もてなしへ一丸

国際定期便2路線・花巻市がセミナー

花巻市のインバウンド（訪日外国人客）拡大に向けた動きが本格化している。26日は同市大通りのなはんプラザで、対策セミナーを開催。市内外の観光関係者らが外国人客の食事の傾向や、接客の心構えに理解を深めた。同市では2018年度に花巻空港発着の国際定期便２路線が就航し、今後も増加が見込まれている。市は19年度、公共施設へのキャッシュレス決済と音声翻訳機配備を進める方針。宿泊施設など観光関係者と連携し、受け入れ環境整備に力を入れる。

観光業者、心構え学ぶ

市主催のセミナーには約110人が参加。経営コンサルタントで希望郷いわて文化大使の村尾隆介さん(45)＝東京都＝が講演した。自ら考案した外国人おもてなしツール「いわての10手」を紹介。東京ディズニーランドを例示し「従業員全員でブランドを背負っているという意識の高さがファンを生んでいる」と指摘した。

同市坂本町の飲食店従業員佐藤宏明さん(41)は「オール花巻で受け入れ態勢を整えていかないと（各地との観光客誘致に）勝ち残れない」と再認識した。

同市の環境整備も本格化する。キャッシュレス決済は公共施設10カ所、音声翻訳機配備は11カ所で予定。関連事業費計148万円を盛り込んだ19年度一般会計当初予算案を28日開会の市議会定例会に提案する。

増加見込み環境整備も

18年の同市への外国人観光客入り込み数は約4万9千人で前年比約4千人増加した。18年度は公共施設4カ所の屋外トイレの洋式化を実施するなど対応を進める。

同市観光課の鈴木秀宜（ひでのり）課長補佐は「外国人客の入り込みは現在は花巻温泉など宿泊施設が中心だが、今後の公共施設への入り込み増に備え翻訳機などを配備していく」と説明する。

セミナーでインバウンド受け入れ策に理解を深める参加者

北上

多様性認める社会を共に

市、きょう条例案提案　住民が意見交換

北上市は28日開会の市議会2月通常会

の北
者

役割を明確化。固定的な性別の役割分担意識などによらない多様な生き方を選べる環境づくり、啓発活動など市が実施する基本的な施策も定める。

市地域づくり課の高橋幸世課長は「外国人、高齢者、障害者、さまざまな方が自分の意見を表明する参画の意識がまちづくりにつながる。市も取り組む責務を負うことになる」と条例の狙いを語る。

の生地を使った表情豊かな人形が約千体並び、来場者を楽しませている。3月3日まで。

水沢くくり雛保存会（佐々木恵子会長）会員の作品、大正から昭和初期に作られたくくり雛を展示。メイプルでは約500体を飾り、水沢コミュニティ産業部の作品も並

包んだくくり雛は、明治時代発祥で商家の女性を中心に広まった。

午前10時～午後5時。最終日の3月3日は同4時まで。問い合わせは市観光物産協会（0197・22・7800）へ。

一関

第

でら

タ「中世の風・春の

（骨寺村ガイダン

議会主催）は3月

西日、一関市厳美

村荘園交流館若神

かれる。音楽ライ

り小物を販売する

を開き、保育

園と小中学校

が昨年閉園・

閉校した本寺

地域を活気づける

マルシェは市内

がアクセサリーや

どを販売。消しゴ

和社長）は27日、2

東京五輪・パラリ

のメダルをリサイ

で作る「都市鉱山

る！みんなのメダ